

# 蓮れん 荷か

「頃の頃からだろうか。好きな花と問われれば「蓮」と答えるようになつたのは。自分でも定かではない。茶道関係の本に、床の間に蓮を生けた写真が載っていた。その姿の美しさにしばらくの間見入ったことを覚えている。上野不忍池の蓮は見事である。都会のど真ん中、茹だるような暑さの中で、池一杯に繁茂する蓮の葉陰から、無数に顔を出す淡紅色に暈かされた大輪の花群れは、遠景に弁天堂を見て、正に一幅の絵である。

**数** 年前の夏になるが、秋田市千秋公園前のホテルに投宿したことがあった。そのホテルの前は大手門の堀となっていて、一面蓮に覆い尽くされていた。蓮の花は朝早くに咲く。七時半から八時頃が見頃であろう。朝食前の一時、清涼たる心持ちで観蓮したことを思い出す。青森県内にも蓮の名所は各地にある。第一に上げるとするならば、やはり猿賀神社の鏡が池の群生であろうか。そこもまた胸肩神社のお堂が添景となつて、なかなかの風情である。

**蓮** の花を見るたび、引き込まれるようなその美しさに嘆息をもらし、自然の造形の素晴らしさを深く認識する。現代の人達は、美しいという言葉よりも、きれいな・可愛いと言葉を多用する。不忍池畔で蓮の花を眺めていた時、近くにいた若い女性数人が「きれいな」と感嘆の声を上げた。「きれい」？。私の中では「美しい」だったので、その言葉に少し違和感を覚えた。次に「可愛い」と声を発した女性がいた。友達もしたり顔である。私は更に違和感を感じて戸惑った。以前と言つても、もう大分前の話になるが、人間国宝酒井田柿右衛門氏の講演を拝聴したことがある。彼はこう話された。柿右衛門様式の美しさは地色にあり、中でも米汁こめじゆはその極みである。そ

れは、単なる真っ白ではなく乳白濁の地肌で、絢爛たる彩釉が一際映えて美しい。そして更に、こう付け加えられたことは今でも忘れない。「美しい」と「きれい」は違うのだと。講演内容の詳細は忘れてしまったが、この言葉は何故か我が意を得たりと、脳裏に鮮明に焼き付いている。ましてや「可愛い」は論外である。原色で彩られたポップアートや派手が売りのファッションそしてネールアートなどは「きれい」と表現するのが相応しいのかもしれない。しかし、蓮は「きれい」でもなければ「可愛い」でもない。美しいのである。

**蓮** の花は開花してから四日目<sup>しにち</sup>に散る。開花一日目、早朝五時頃から蕾がほんの少し緩む。そして陽が高くなり始めると閉じる。その日の開花は、それでお仕舞い。二日目、夜中一時頃から蕾がほぐれ、六時頃から徐に開き始める。時を追つてその花は蕊しゆいを見せて大きく咲く。しかし、それも九時頃になれば閉じ出すのである。開花三日目。前日と同じように午前一時頃から蕾を緩め八時半頃に最大に開くが、既に色は褪せ始め閉じ出す頃には一片二片と花びらを散らす。いよいよ四日目。夜中から開き始めた花は、六時頃には半開きのままに散り出し、九時頃には花托だけの姿となる。天候や種類によつて若干の違いはあるだろうが、大方はこのような変化を経過すると言ふ。

**こ** の世のものは全て無常である。晩秋の敗荷やぶせや冬の枯蓮は、盛夏折れ曲がり無残な姿で、いたく哀れを誘う。しかし私は、その風情にも強く心打たれる。それは平家物語にもあるとおり、ただ天人の五衰に異ならない景色である。それら全てを含めて私は蓮荷に惹かれる。

(元青森県立北斗高校校長)

青木 裕次